

「日光例幣使道」さあ、いよいよ五年目で日光東照宮へ！ 首尾よく“上がり”へ

平成の大修理でよみがえった東照宮を中から見よう

(前略)

「例幣使様、奉幣の儀は、つつがなく終わったのであろうな」

「はい、昨四月十六日卯の刻（午前七時）、浄土院を出門せられ、朝廷よりの金幣を東照宮に参り、無事社頭の御儀を終られました由、その後、大猷院様の御霊に詣でられ、巳の刻（午前十時）には宿坊へお帰り遊ばしました。」

「それは重畳。して例幣使様御一行が日光山をお発ちなさるの、...」「昨日でござりました」

「ほう」「宿坊に戻られて後、束帯を狩衣、指貫に改められ、輪王寺へ入られて、輪王寺の宮より昼食を賜り、再び、宿坊へ戻られて、いろいろと御挨拶があり、正午すぎにはお発ちなさるとのこと、手前は一足先に日光山を後に致しました」「それは、随分とおいそがしいことじゃな」

「はい、手前共もそのように存じましたが、お供の方の話によれば、慣例とのこと、...」

「なまじ、長々と御滞在になると、双方共に厄介と申すことかな」様子を見て晩餉の膳を運んで来たお鯉へおっしゃった。「京より日光山まで往復一ヶ月もの旅をして、肝腎の日光山滞在はおよそ二日、それも最初の一日は午すぎに着いて明日の奉幣の下見をする。翌日は早朝の儀式を終えて、草々に帰途につく、公卿衆と申すものは、なかなか厄介じゃな」お鯉が目を丸くした。

「御公務とはいいながら、大変なことでございますね」

(後略)

平岩弓枝『日光例幣使道の殺人 はやぶさ新八御用旅』（2004 講談社）

四年前から始めた日光例幣使道の旅も、いよいよ“上がり”の東照宮です。徳川幕府の初代将軍徳川家康の廟として、元和三年（1617）久能山から移されて祀られた日光東照宮。主な社殿群は三代将軍家光により寛永13年（1636）に造り替えられました。国宝の陽明門や唐門などの社殿群は、平成11年に「世界文化遺産」に登録されました。

境内外につきましては、日光市教育委員会職員に解説をお願いし、境内内では神社職員に世界遺産の構成資産の説明を中心として説明を受けます。

なお、東照宮見学に際しましては、「家内安全」・「身体健全」・「商売繁盛」などを「団体で祈禱」を受けると言う形で臨みますので、ご承知をお願いします。

記

1. **日 程** 平成30年6月24日（日） 雨天決行 （東観光バス株）

2. **乗車場所**

JR高崎駅東口イスタワ-横歩道	7:40発	(18:00着)
群馬の森東側臨時第2駐車場	8:00発	(17:40着) (トレ付近から乗車)
JR伊勢崎駅北口	8:40発	(17:00着)

集合場所がわからない時は事前にお問い合わせ下さい。特に森の方は出発10分前にご自分位しかいない時は集合場所と異なる場合があります**090-2568-5522**へお電話下さい。

3. **講 師** 鈴木泰浩氏（日光市教育委員会文化財課）

4. **見学先** **東照宮脇までバスを乗入れ、巫女の案内で白木廊下から直接境内へ入ります。**

○小倉の並木寄進碑（講師の鈴木氏が乗車し、東照宮まで車中にて沿線の文化財について解説）

日光市小倉 日光街道（宇都宮～今市～日光）、例幣使街道（鹿沼～今市）、会津西街道（大桑～今市）の内、旧今市・日光市の両側に残る総延長約37kmの杉並木は、日光杉並木街道として日本で唯一の特別史跡・特別天然記念物の二重指定。徳川家康の近臣松平正綱が植栽したもの、とされる。

裏面も確認下さい。

○日光東照宮 「団体で祈祷」という形式で見学します。

- ・「家内安全」、「身体健全」、「商売繁盛」などの「祈祷」
- ・「祈祷」の後、客殿にて直会
- ・授与品、記念品、等
- ・世界遺産の東照宮の解説

○日光市歴史民俗資料館・二宮尊徳記念館（渋滞時には割愛となります。）

※その他：見学先では徒歩での見学が多くなりますので、その旨ご留意の上、履物等の準備をして御参加をお願いします。旅程は道路事情等により変更する場合があります。

5. **定員** 42名（最低催行人員は30名） 6. **申込期限** 平成30年5月24日（木）

7. **参加費等** 参加費 会員 9,000円（**特別祈祷・入館料2300円**）

参加費の払い込み方法

同封の**青文字**の振込取扱票をご使用下さい。（手数料は参加者負担となります。）

郵便払込口座 群馬県立歴史博物館友の会 00390-0-6617

事務局より見学会案内が届きましたら6月9日（土）迄にお振込み下さい。

8. **申込方法** 往復はがきに下記をご記入の上、お申込み下さい。（1見学会に1枚の往復葉書使用）

往信面

- ①【日光例幣使道見学会】 ②会員番号又は一般の別 ③氏名 ④〒と住所
⑤生年月日 ⑥電話番号・携帯電話番号（**必須**） ⑦乗車場所
⑧緊急連絡先と電話番号

（一人住まいの方と夫婦二人住まいで夫婦で参加の場合は必ず自宅以外を記入）

ご自分の携帯番号は必ず記入下さい。現地にての事務局からの緊急連絡に使用します。

返信面

- ①宛先（ご自身の〒と住所） ②氏名と様（行宛と記入しない）

※同一の住所なら1枚のハガキで2名様迄お申込み承ります。

9. **その他の注意事項**

昼食・飲み物・雨具等は各自ご用意下さい。歩きやすい仕度でご参加下さい。
少額の保険に加入しますが、友の会は一切責任を持ちません。自己責任でのご参加をお願いいたします。

90歳以上は保険会社が引き受けしないため、友の会も参加引き受けできません。

10. **キャンセルについて**

キャンセルの際は事務局宛にご連絡下さい。

返金の際の手数料はキャンセル者の負担となります。

11. **申込先・問い合わせ先** 群馬県立歴史博物館友の会事務局

〒370-1293 高崎市綿貫町992-1 勤務時間は火・金の9時から4時

TEL090-2568-5522

12. **バス乗車場所**

申し訳ないですが紙面に限りがあり乗車場所の地図を掲載することが出来ません。
つきましては**武士の時代の群馬裏面の地図を参考にしてください。**